



作るの忘れてません！ お待たせしました！ 久々の今号は医療特集

2012年5月5日

発行元：108-8345 港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部 吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

お待たせしました！m(_ _)m

前号をお届けしてから、10ヶ月近く間が開いてしまい、本当に申し訳ありません。

原稿を早くからお届けくださった皆様には掲載が遅くなりましたこととお詫びします。

今号は医療関係の報告を中心にお届けします。昨年末に開催された静岡県防災センターでのつどいの模様は次号で紹介の予定ですので、しばらくお待ちください。

クロスロードの入手方法および活用について (注意とお願い)

クロスロードの入手について、各方面からお問い合わせをいただいておりますため、以下に入手方法を改めてお知らせします。

クロスロードは、京都大学生協でお求めになれます(以下に紹介サイトがあります)。

<http://www.s-coop.net/rune/bousai/crossroad.html>

電話の上でお申し込みください。ご担当は氏家(うじいえ)様です。

なお、実施にあたっては、人数分のキットのご購入をお願いいたします。カードの無断複製はお断りしております。5人分のセットで最大25人、20人分セットで最大100人までお使いいただけます。

次いでお問い合わせの多い問題の自作してのワークショップ等での活用については、地方公共団体などの団体での活用、および継続的な活用については、チームクロスロードと覚書を交わして頂いた上での使用をお願いしています。覚書締結先は公開しておりませんが、原則として同じ内容のもの(〇〇編)について、覚書を複数の団体と締結することはない(先着順)慣例となっているため、場合によっては覚書を交わせないことがあります。

*クロスロードは、登録商標です。「クロスロード」：商願番号2004-83439(第28類)「CROSSROAD」：同2004-83440(第28類)

そして静岡のつどいの模様は・・・ 次号をおたのしみにい！

これも遅ればせの報告になってしまいましたが、2011年12月25日、静岡県防災センターで開催された「クロスロードのつどい」の模様も次号でお知らせいたします。

あわせて、久しぶりのファシリテータ講座@山形の初級認定者もご紹介します。

目次

お詫びたくさん	1
クロスロードの入手方法	1
つどい報告は次号で	1
保健所でクロスロード	2
進級認定	2
クロスロード薬学教育編	3
ジオ・ソナーター	4
こんなところに心理学(33)	5
紙芝居できました	6

クロスロード次号のご案内
発行予定日：
2012. 5. 30.
原稿たくさんにつき、まとめてだす予定です。



責任編集

- ・ チームクロスロード
- ・ クロスロード・サポーター
- ・ SPECIAL THANKS:
高知県南海地震対策課
小溝智子(漫画企画)

保健所の健康危機管理訓練でクロスロードを実施しました！

埼玉県川口保健所では、2011年9月21日（水）に順天堂大学医学部公衆衛生学教室の堀口逸子先生を講師としてお招きして、「大震災発生時における健康危機管理－クロスロード・机上訓練－」を実施しました。参加者は26名で、内訳は埼玉県内の保健所や衛生研究所の職員、市町村の防災担当課や保健衛生担当課、保健センターの職員です。

最初に、堀口先生にリスクコミュニケーションに関する講義をしていただき、後半から参加者を5人ずつ5つのグループに分けて、「クロスロード」を実施しました。

全員に赤と青のカードを配り、テーブルの中央に青座布団と金座布団を積んでクロスロードの開始です。ほぼ全員がクロスロードを体験するのは初めてでしたが、堀口先生のご指導のもと、スムーズに進行しました。今回の研修の実施に当たって、川口保健所では次のようなクロスロード問題を作成しました。東日本大震災の後、被災地に支援に行った職員もあり、身近な問題として考えられたようです。

◎研修会実施後のアンケートでは・・・

- ・今回の研修は効果がありましたか？
「大変効果があった」「やや効果があった」を合わせると、全員が研修は効果があったと回答しました。
- ・今回の研修内容は、今後、必要だと思いますか？

「非常に必要」「やや必要」を合わせると、全員が今回の研修が必要であると回答しました。

また、参加者からは次のような感想がありました。
◇災害発生時だけでなく、平時のコミュニケーションについても考えておく必要があると思ひ、とても勉強になった。

- ◇参加型研修は、楽しんで学習できてよかった。
- ◇防災以外にもクロスロードを応用できる事がわかり、また非常に有用である事がわかってよかった。
- ◇クロスロードを取り入れた事業のはこびも考えていこうと思った。楽しかった。

川口保健所では、今後も、クロスロードを取り入れた研修の実施により、健康危機管理意識の向上を図っていきたいと考えています。

（埼玉県川口保健所 広域調整担当 医幹
川南 勝彦 先生）

（事務局より）
研修の内容は以下のページでもご覧になれます。
<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/kenko-kikikanri.html>

	あなたは	問 題	YES	NO
1	保健所職員	早朝に地震。家の家具が散乱し、家族が大ケガ。交通手段の確保も難しい。がんばって出勤する？	出勤する	休む
2	統括保健師	震災から10日目。自治体からの保健師派遣について1週間と限定された。受け入れる？	受け入れる	止めておく
3	自治体職員	出張先で被災。避難所にたどりつき、夜を明かすことに。そこで賞味期限切れの非常食がたくさん見つかった。配布したらどうかとみなで議論。あなたは、配布に賛成？	賛成	反対

ファシリテータ進級認定！

以下の方を中級に認定いたしました。（敬称略）

加東市 社会福祉課 原田 幸広
和歌山県県土整備部 栗 将倫
ソーシャル・アクティ 林加代子

【応募先】108-8345
港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部 吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局
電話：03-5427-1251 ファックス：03-5427-1578
メール：kiikkawa@aoni.waseda.jp

電子投稿はこちら↓
<http://maechan.net/crossroad/toukou.html>

クロスロード薬学教育編

2010年より薬学部6年生1期の実習が始まりました。より深い知識を持ちチーム医療に貢献できる薬剤師を作ることが目的と言われています。

チーム医療の中でも特に注目されているものの1つに、副作用の早期発見など薬物治療の安全性を高めることです。副作用であるか副作用でないかを判断し患者さんに指示することは、新人薬剤師や学生にとってかなり難しい問題です。そこで、問題を単純化しゲーミングという手法を用いて楽しく学び、薬剤師の判断力を高めるきっかけとして、クロスロードを試みましたのでご報告させていただきます。

問題例

あなたは薬剤師です。

午前1時頃、患者さんから電話で問い合わせがありました。

患者さん：「Aという薬をのんだら、蕁麻疹でできたんやけど、どうしたらええ？」

主治医は、当直をしていません。

あなたは、「すぐに治療が必要と判断しますか」 治療が必要な場合は、「Yes」
それとも「自宅で様子を見てもらいますか」 自宅で様子を見る場合は、「No」

参加学生の感想

・どちらを選ぶかかなり悩みました。しかし、いつこのような質問をされるのかわからないため、事前に考えることができてよかったです。また、ほかの人の判断を聞くことができてとても参考になりました。（摂南大学薬学部生）

・実際に起こりそうな例題ばかりで、薬剤師として働いていると、とっさに判断しなければならないことがたくさんあるのだと感じました。その時により良い判断ができるよう、今から鍛えておくことは大切だと思いました。（大阪大谷大学薬学部生）

（市立岸和田市民病院 安全対策室
狩谷佳寛 先生）



←議論の様子

ソナーター（17）：ジオパークで自然災害を楽しみながら知っちゃおう

私たちが生活している場所や遊びに行く場所には、さまざまな歴史文化や美しい自然の風景があります。各地にあるこのような豊かな自然や文化は、日本という大地の成り立ちと深いかわりを持っています。

■ジオパークってなに？

ジオパークは、私たちの生きる大地を作った活動に耳を傾け、知って、大切に、楽しんでしまおうという取り組みです。キレイな風景の成り立ちだけでなく、同じ成り立ちの上で育まれた歴史や文化、特産品などヒトの活動もジオパークの見どころです。

■ジオパークはどこにあるの？

ジオパークには、「世界ジオパーク」と、「日本ジオパーク」があります。ジオパークを目指す地域はまず日本ジオパークの認定をうけ、その後、世界ジオパークへとステップアップしていきます。現在、日本国内には、5地域の世界ジオパークと、15地域の日本ジオパークがあります。また、10地域が日本ジオパークを目指し活動しています（筆者の所属する「伊豆半島」はジオパークを目指す地域です）。

■歴史文化の語り部としてのジオパーク

歴史や文化は、大地の成り立ちと深く関わっています。伊豆南部の下田市にある白浜神社の裏手には、海を向いた鳥居が建っています。この鳥居、実は三宅島の方を向いていて、西暦832年の三宅島噴火を鎮めるために白浜神社に設置されたそうです。伊豆諸島の噴火が見える場所に住む伊豆の人々は、諸島の火山活動を畏れ、各地にこのような伝統や遺跡を残しています。



■ジオパークで自然災害を楽しく知る？

美しい自然は災害の語り部でもあります。大地のなりたちを知ることで、その地域で災害がどのようにして起こるのか知ることができます。

伊豆には伊豆東部火山群という活火山があり、時々、地下のマグマの動きによる群発地震が起きます。被害が出ることは少ないものの、目に見えない地下の出来事は不安をあおります。ところが、伊豆半島の土台を作っている古い海底火山の地層の中には、地下にあったマグマの通り道である「岩脈」を直接観察できる場所があります。水平な地層を断ち切って延びる岩脈がみごとな崖は景勝地でもありますし、岩脈の近くにできた海食洞ではカヤックなどのマリンスポーツを多くの人々が楽しんでいます。

ジオパークでは自然を深く楽しみつつ、知らず知らずのうちに起こりうる災害について知り、考えることができます。ぜひ近くのジオパークに遊びに行って、自然の雄大な営みの一端を感じてみてください。

- 世界ジオパーク（5地域）
- 日本ジオパーク（15地域）



2011年10月現在

（伊豆半島ジオパーク推進協議会
鈴木 雄介さん）



矢印の部分が「岩脈」

こんなところに心理学 (33) : 危機時に専門家に頼るキケン

「三人寄れば文殊の知恵」と言いますよね。このことわざは、集団であれば個人よりもより良い意思決定ができるという私たちの素朴な信念を表現しています。でも、本当にそうでしょうか？

残念ながら心理学の研究結果はこのような信念に否定的です。集団で話し合った結果が、必ずしもその集団の中の有能な個人の決定よりも優れたものとはならないことも多いことが明らかになっています。

クロスロード新聞26号のこのコラムでもちょっと紹介しましたが、集団浅慮（グループシンク、groupthink）という現象は、危機管理上とても重要です。集団浅慮とは、集団の話合いの時に、過度に危険（risky）な決定を集団が下してしまうことをいいます。

この現象は、ジャニス（Janis）という研究者が、ケネディ大統領の1961年のキューバ侵攻（いわゆるピッグス湾事件）の失敗の分析により明らかにされました。この事件は、アメリカのCIAが当時の亡命キューバ人を中心に傭兵部隊を編成し、キューバのピッグス湾に上陸侵攻したものの、キューバ軍の反攻にあって、わずか3日で退却を余儀なくされたという歴史的な作戦の失敗です。

わずか3日で失敗するような作戦をなぜ、大統領の優秀なブレーンを集めた会議が決定してしまったのでしょうか？ジャニスは、その会議の内容を分析して、このような危機的状況での専門家集団の決定にありがちな特徴を見いだしたのです。そして、たとえ優秀なメンバーを集めた集団であっても、また、そういう集団こそ、不合理な決定を下してしまう可能性を指摘したのです。「浅慮」という日本語の訳は、そういう意味で使われています。

現実的に危機的な状況では、決定までに時間の猶予がないことがほとんどですよね。そのような場合には、当代随一の、と称されるような専門家が集められて決定が行われることの方が多くあります。しかし、まさにそういうときにこそ、愚かな意思決定が行われる可能性があるのです。ここで大事なことは、「専門家だから間違えるはずがない」のではなく、「専門家だからこそ間違える」ということです。

このような現象は、最初に指摘されたのは1972年ですが、その後もくりかえし起っていることが確認されています。代表的には、スペースシャトルチャレンジャー号の打ち上げ失敗事故（1986）があげられます。チャレンジャー号の打ち上げ前に、部品の不具合による事故の可能性が、下請け会社であるモートン・サイオコール社の技術者から指摘があったのですが、NASAはこの指摘を軽視しました。結果的にこの部品が予測通り事故の原因になりました。打ち上げることに決定したのは、打ち上げ前夜にNASAで行われた会議でした。

なぜ集団浅慮のような現象がおこるのでしょうか？集団浅慮が起こりやすい条件として、代表的には4つがあげられています。

(1) 決定までの時間が限られている。

(2) 多数決がよいと無批判的に信じられている。

(3) 決定のために必要な知識や技術が特殊である。

(4) 決定によって影響を受ける関係者が意思決定に参加していない。

(1)は、まさに危機的状況のことですね。NASAの会議も最終決定の会議は打ち上げ前夜でした。

(2)は、意外に思われるかもしれませんが、民主的な体制ではありがちなことですね。そういえば、クロスロードでも多数派が座布団をもらうルールになっています（笑）。

(3)は、まさに「専門家に頼るしかない」状況を指しているわけですが、このように知識が特殊だと、専門家同士がお互いの知識に敬意を払いすぎてしまい、「〇〇さんの言うことなら」と、相手の意見を批判的に検討する機会がなくなってしまいます。また、(2)の条件と合わせて考えてみると、「私たちは専門知識を持ったもの同士だから、意見もきっと同じなはず。」とお互いの意見に同調してしまう傾向を生むのです。

実際、過去の事例をしてみると、「専門家同士」という集団を維持したいという気持ちが働き過ぎるために、異なる意見を言う人がいると積極的に排除するメンバー（監視人役）が出てくることも観察されています。また、「不敗の幻想」と命名されていますが、「私たちが正しく、間違えるはずがない」という信念が共有されるのも集団浅慮を起こす集団の特徴として見いだされています。キューバ侵攻の場合には、キューバという共産国家に対して、彼らの方が非道徳的であると言うような見方がなされていました。しかし、ちょっと考えてみればわかることですが、政治体制がどのようなものであるかは、軍事力とは本来関係ないはずですよ。

(4)も、危機的な状況ではありがちなことですが、チャレンジャー事故の場合には、前夜のNASAでの会議に宇宙飛行士は参加していません。これも少し考えればわかることですが、事故が起こるかどうかによって最も影響を受けるのは（結果的に亡くなった）乗員であるはずですから、彼らが議論に参加していれば、結論はまた違った方向になっていたかもしれません。

では、集団浅慮を防ぐためにはどうしたらよいのでしょうか？これについてもいくつかの提案がされているのでご紹介しましょう。たとえば、反対意見を言う役割の人を積極的に置く、あるいはそういう役割をリーダーが意識的にとるといのは代表的な方法です。ここでも、クロスロードの「金座布団」ルールが思い出されますね（笑）。また、議論する集団を2つに分けて別々に議論させ、結論を比較するという方法も提案されています。

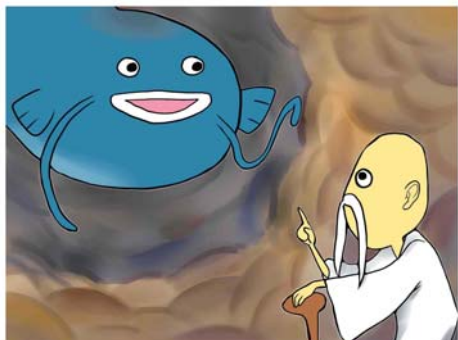
そして、もう1つ大事なこと。ここであげた例はアメリカの事例ばかりですが、日本では起こっていないのでしょうか？残念ながら、それを検討しようにも日本の場合議事録が残っていないので、集団浅慮があったかどうかすら検討できないことが多いのですよ。

新しい防災教材できました！紙芝居「ナマズの使い」

新しい防災教材「ナマズの使い」（紙芝居）ができました。物語は、福島県の磐梯山に伝わる伝承をもとにしたもので、今回シナリオライターの池田和穂さんが、紙芝居用に物語を翻案してくださいました。絵は、岩手県立大学を昨年度卒業された田中みなみ(伊藤英之研究室)さんが描いています。

画像をいくつかご紹介しましょう。お話は、ナマズがくれた地震の知らせを無視したためにひどい目に遭った「みょうじんさま」が主人公になっています。警告を軽んじたために災害にあったことが、ユーモラスに語られます。さーて、どんなお話かな～。

すでに昨夏福島県や岩手県の小学校で防災教材として使われました。その時の様子も写真でご紹介しましょう。



なまずどんにおねがい・・・



たいへんだー



どっかーん！



↑ 熱演する田中みなみさん

みんなで防災学習。紙芝居で学んだことをクイズでおさらい(指導は伊藤ゼミのみなさん)→

